

分析結果報告書〔 3 〕 1 / 2

1 . 3 排水試料(ふっ素)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得(複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	()年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

回数	分析結果(mg/L) 注1)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
	検出下限値以上 注2)	
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1. ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法 2. イオン電極法 3. イオンクロマトグラフ法 4. その他(オートアナライザー又はCF C法)注4) 5. その他()
使用した水	1. 蒸留水 2. 伊交換水 3. 超純水 4. その他()

注4) 例えば、原理が「ランタン-アリザリンコンプレキソン吸光光度法」と同一でも、オートアナライザー又はCF C法である場合には「4.」を選択する。

< 蒸留操作 >

試料量	() mL
濃縮	1. 行う 2. 行わない
蒸留 使用した酸 受器(全量フラスコ) 受器への添加	1. 過塩素酸 2. 硫酸 3. その他() () mL 1. 吸収液を使用しない 2. 水酸化ナトリウム溶液を使用 3. その他の使用()
留出液の中和 留出液の定容量	1. 行う 2. 行わない () mL

< 吸光光度法 >

前記 < 蒸留操作 >	1. 行う 2. 行わない
留出液(又は試料)の分取量	() mL 注5)
ランタン-アリザリンコンプレキソン溶液	1. 酸化ランタン・アリザリンコンプレキソン等より調製 2. 市販のアルフッソンより調製 3. その他()
測定波長	() nm

注5) 蒸留した場合には留出液の量、蒸留しない場合には試料の量を記入する。

分析結果報告書〔 3 〕 2 / 2

< イオン電極法 >

前記 < 蒸留操作 >	1. 行う 2. 行わない
-------------	---------------

< イオンクロマトグラフ法 >

前記 < 蒸留操作 >	1. 行う 2. 行わない
留出液 (又は試料) の希釈	希釈倍率 () 注 1)
溶離液の種類	1. 水酸化カリウム溶液 2. 炭酸ナトリウム・炭酸水素ナトリウム混合溶液 3. 炭酸ナトリウム溶液 4. 炭酸水素ナトリウム溶液 5. その他 ()
分離カラムの種類	1. AS17 2. AS18 3. AS19 4. AS20 5. AS21 6. AS22 7. AS23 8. その他 ()
イオンクロマトグラフ メーカー 型式	1. ダイオネクス 2. 島津 3. 日立 4. その他 () 1. ICS1000 2. ICS1500 3. ICS2000 4. その他 () () ()
区分	1. サプレッサー型 2. ノンサプレッサー型
注入量	() μ L

注 1) 蒸留した場合には留出液、蒸留しない場合には試料の希釈倍率を記入する。

希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

< 検量線の作成等 >

定量方法 方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
内標準法：内標準物質の種類	()
検量線 作成点数	()
作成範囲	最小 () ~ 最大 () 注 2)
最高濃度の指示値	()
試料の指示値	1 回目 () 注 3) 2 回目 () 3 回目 ()
空試験の指示値	() 注 4)
検出下限値	() mg/L 注 5)

注 2) 吸光度法では分析装置で測定する溶液中の量 (μ g)、イオン電極法又はイオンクロマトグラフ法では分析装置で測定する溶液中の濃度 (mg/L) を示す。

注 3) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注 4) 標準添加法では記入しない。

注 5) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--